

市では、現在新たなまちづくりの指針となる新総合計画の策定を進めています。計画を審議する総合計画審議会の委員の皆さんに、これからのまちづくりに期待することなどを伺います。

特定非営利活動法人  
都市デザインワークス  
代表理事

榎原進さん



特定非営利活動法人  
まちづくりスポーツ仙台  
ディレクター

岩間友希さん



プロフィール

東京から仙台へ1ターンし、株式会社都市設計にて地下鉄東西線WEプロジェクト等に参加。現在は郊外住宅地など、地域の課題解決をサポートしている

プロフィール

震災復興まちづくりや定禅寺通活性化など、市民主体のまちづくりを支援。都心を流れる広瀬川一帯の魅力を高める「せんだいセントラルパーク」の提案と実践にも取り組む

**Q** まちづくり活動で感じる仙台の魅力は？

**A** 岩間 東京から仙台へ移り住んで感じたのが、市民協働のまちづくりが盛んだということ。こんなまちにしたいという意志さえ持っていれば、市民参加がしやすい都市だと思えます。もともとと私自身、まちづくりの専門家ではありませんでしたが、仕事で関わっているうちにどんどん楽しくなってきました。自分から「こういふことがやりたい」と声を上げていたら、次々とプロジェクトが生まれま

した。  
**榎原** 仙台はほどよく都会で、ほどよく田舎なのが魅力なので。活動のフィールドが多様なので、いろいろなことに挑戦しやすいのかもしれないですね。

**岩間** 全国で初めて公設民営の「市民活動サポートセンター」が設置されたのが仙台ですよ。それが平成11年。  
**榎原** 私も平成14年にNPO法人を立ち上げましたが、周りに応援してくれる人たちがいたからこそ、今に至っています。そう考えると、自分たちがやりたいことに挑戦できる環境がずっと仙台にあるのは幸せなこと。まちが実践の場となり、まちも人もお互いに高め合っているように感じます。



「市民活動サポートセンター」は、さまざまなまちづくり活動に携わる人々が集う、協働の拠点施設となっています

**Q** これからの仙台に期待することは？

**A** 岩間 仙台は支店経済都市とも言われていて、東京などの他都市から転動してくる人が多いですよ。見方を変えると、さまざまなスキルを持つ人が仙台に集まってくるわけです。仙台で

暮らしている間は皆さんが市民ですから、一緒に楽しくまちづくりにチャレンジすることで、より良い仙台に発展していけたらと願っています。

**榎原** チャレンジには失敗がつきものなので、それも次につなげられる都市になればいいですね。トライ&エラーもまちづくりのノウハウとして蓄積し、仙台の皆さんで共有していくことができれば、まちとしての厚みも増すでしょう。  
**岩間** 仙台は震災の経験があるため防災のノウハウを持っていて、また都市としてのインフラが充実しています。その上にチャレンジできる風土があるというのは、仙台の大きな強みだと感じています。

**榎原** 「まちづくり」とか「チャレンジ」と言うのが難しく聞こえるかもしれませんが、実はすごく身近なこと。自分が住むまちを少しでも良くしたいと思って行動したり、何か困っている人を手助けしたりするだけでも、それがまちづくりにつながると考えています。

**Q** どんな総合計画を目標としていますか？

**A** 榎原 「計画」という言葉を使うと、どこか他人ごとのように思われがちですが、この総合計画は仙台の皆さんと一緒に考えてつくっていくもの。さまざまな

人「自分ごと」と感じてもらえるものにしたいです。

**岩間** 確かに「総合計画」と漢字で並べると堅苦しいですが、「まちのビジョンを決めよう」としている」と言い換えると、計画ができたから取り組みも見えてくるような気がしています。ビジョンは「絵に描いた餅」かもしれませんが、そこをスタートに、具体的にどう動いていくか決めていけばいいのかなど。

**榎原** 「絵に描いた餅」で終わらせず、例えるなら仙台の皆さんと一緒に餅つきをして、自分なりの味付けでおいしく食べられる餅にすることが重要ですよ。

**岩間** そのためには総合計画を策定して終わりではなく、市民がまちづくりに参加できる接点をたくさんつくるのが大切。それを何回も何回も繰り返し、だんだんと仙台人の誇りが醸成されるようなサイクルが生まれたいなと思っています。

**榎原** そうですね。実際に審議会の場でも、他の分野の知識や経験を掛け合わせることで、可能性が広がっているのを感じます。市民の皆さんにもまちづくりを通して、多様な人と接点が増える面白さを体感してもらえたらうれしいです。